

国際社会学部

国際社会学

transnational sociology / global sociology



どのような学問か

社会学はその始まりから「社会」（と「個人」の関わり）をその学問対象としてきましたが、そこでは無意識に国民社会が想定されてきました。そのように社会学の思考を規定してきた国民国家という枠組みを批判的に再検討し、そこからズレたり超越する（＝トランスナショナルな）現象・プロセス・構造やその主体に着目するのが国際社会学です。具体的な研究対象となるのは、ナショナリズムや国民国家それ自体に加え、国際移動の現象やトランスナショナリズム、それを担う移住者・外国人、そして国民共同体で周辺化されるマイノリティの経験や権利のあり方、さらにはマジョリティの権力や特権です。

外大における国際社会学

国際社会学は、もともと社会学の社会＝国民社会という想定に異議を唱えるなかで発展してきました。そうした意味で、日本という地域の外に関心を寄せる地域研究や、EUなどの地域共同体におけるシティズンシップや国民国家のあり方に関心を寄せる政治学や国際政治学とも繋がりがあります。また、国際移動／移民という研究対象からは、移民研究の学際性を介して、法学・歴史学・人類学・人口学・政策学とも接点があります。さらに、社会学という学問分野では、都市空間における移住者や外国人に関心を寄せる都市社会学や、「外国につながる子ども」の教育に関心を寄せる教育社会学、外国人や移住者の権利や地位に着目する法・政治社会学とも密接につながっています。

このように、「国際社会学」と銘打っていない授業やゼミでも、国際社会的なことを学んだり研究することができます。

関連する授業一覧（2023年度）

- 布川あゆみ「異文化間教育」
- 梁英聖「レイシズム・スタディーズ入門」「レイシズム・スタディーズA」「レイシズム・スタディーズB」
- 萩尾生「『多文化共生』の批判的理解のために」
- 柏崎正憲「Political Sociology of Citizenship and Nationality」
- 中山裕美「グローバルガバナンス論と難民・移民問題」
- 徳永 理彩「Gender and Globalization」
- 砂川秀樹「ボランティアと市民活動」
- 上原こずえ「質的社会調査法」「社会学原論」「現代社会論」

ゼミ

- 田邊佳美（西南ヨーロッパ）

関連する学問分野

- 移民・難民研究
- ナショナリズム／レイシズム研究
- 法社会学／政治社会学
- 教育社会学
- 都市社会学
- 社会運動論
- インターセクショナリティ／交差性
- 民族誌的研究・質的調査法

おススメの本

- 宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂、『国際社会学』
- シバ、M.ジョージ（伊藤るり監訳）『女が先に移り住むとき』
- 徐阿貴『在日朝鮮人女性による「下位の対抗的な公共圏」の形成』
- 森千香子・エレン・ルバイ『排外主義を問い直す』